

HATANO CLINIC

RECRUIT INFORMATION
FOR DOCTORS



当院は総合内科とし、
地域の「かかりつけ医」として
皆様の困りごと・悩みの解決を
目指します



総合内科

発熱・鼻水・咳といった風邪症状、頭痛・腹痛・動悸・息切れ・めまいといった身近な症状から、生活習慣病・脂質異常症・高血圧などの慢性疾患まで幅広く診療しており、特に生活習慣病・高血圧・脂質異常症の治療に力を入れています。

消化器内科

食道・胃・十二指腸、小腸、大腸といった消化管と、肝臓・胆のう・膵臓まで総合的に診療します。潰瘍や炎症などの消化器疾患の診断や治療から、胃がんや大腸がんなど悪性腫瘍の診断など幅広く診療しています。

小児科

お子様の診察・治療を行います。熱・咳・鼻水・頭痛などの風邪症状や腹痛、下痢、嘔吐からくる胃腸炎といった急性疾患から、喘息などの慢性疾患まで幅広く対応しております。また小児を対象とする各種予防接種も実施しております。

泌尿器科

男性では前立腺肥大症、女性では膀胱炎や過活動膀胱など腎臓、膀胱、尿道などの病気を診療しています。
※土曜日偶数週のみ実施

感染症内科

急性上気道炎、肺炎、感染性腸炎、尿路感染症、蜂窩織炎など専門に扱い治療を行います。
※土曜日奇数週のみ実施

健診・人間ドック

予防接種

内視鏡内科

胃カメラ

当院では鼻からスコープを挿入する経鼻内視鏡を導入しています。

大腸カメラ

当院では大腸ガンの早期発見・早期治療のためにAI技術-内視鏡診断支援機能-CAD EYE™(キャドアイ)-を活用して病変をリアルタイム検出・鑑別を支援するシステムを導入しています。AIを使った画像認識機能を活用し、病変部を検出します。



設備紹介

画像検査

AI内視鏡検査

富士フィルムが開発したAI技術を利用し、大腸ポリープなどの病変検出や腫瘍の鑑別を支援するシステム、内視鏡診断支援機能「CAD EYE™（キャド アイ）」を用いたAI内視鏡検査を行なっています。



内視鏡検査

LED光源搭載内視鏡システム搭載で微小な病変の発見をサポートします。

観察に適した画像を作り出す技術「Multi-Light Technology」を採用した富士フィルムの内視鏡6000システムを使用しています。



嚥下内視鏡検査

ペンタックス製の内視鏡を導入しています。高解像イメージファイバーにより、鮮明で明るい高解像な画像を実現しています。



全身用X線CT

キヤノンのAquilion Startを導入しており、ベッド部分が低く、患者負担が軽減された設計となっています。また当院では遠隔読影システムを導入しており、CT画像を送信し、放射線科専門医が遠隔で画像診断、レポート作成を行います。



超音波診断装置

鮮明で高画質な画像が得られると定評のあるキヤノン製のXario 100Gを導入しています。

循環器や腹部など幅広い領域を高画質で観察できます。



画像診断システムCR装置

X線透過画像を短時間で画像化・デジタル化する装置です。レントゲン撮影により得られた全ての画像データはデジタル化され、クリニック内や連携病院とのデータ連動を可能にします。従来のフィルム現像の必要がなく、現像液や現像機なども不要なため、時間短縮や効率化に繋がります。高画質・高精細な画像を得られるため、診断精度も格段に向上します。

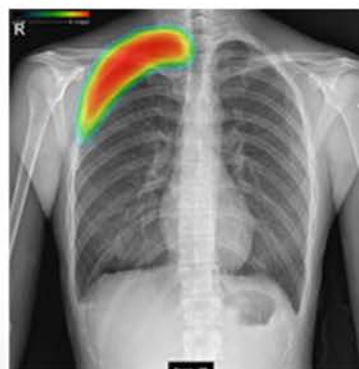


胸部レントゲン検査(胸部X線画像病変検出ソフトウェア)

AIによる診療補助装置、胸部X線画像病変検出ソフトウェア「CXR-AID（シーエックスアール エイド）」を用いて診断を行っております。

AI技術を活用して胸部単純X線画像から結節・腫瘤影、浸潤影、気胸の3つの画像所見を検出し、画像診断を支援するシステムです。

撮影した胸部単純X線画像を自動解析し、結節・腫瘤影、浸潤影、気胸が疑われる領域を検出しマーキングします。



検体検査

血液検査(全自動血球計数器)

白血球5分類に加えRET項目を含む血液31項目を測定、当日結果がわかります。



血液生化学検査(臨床化学分析装置)

採血検体を用いて肝臓疾患・腎臓疾患・炎症反応などを迅速に測定します。

腎機能、肝機能、炎症反応、中性脂肪、コレステロール値など30項目の測定が可能です。急性疾患の診断に有効な迅速検査です。



HbA1c計測/グリコヘモグロビン分析装置

全血中のグリコヘモグロビン（HbA1c）濃度を測定する装置です。血糖コントロールの程度を判断するのに重要な数値で、糖尿病の状態を知るのに欠かせない検査です。指先の採血を用いてその場で迅速に測定することができ、当日結果が判明します。



その他・生理検査



尿検査
尿分析装置



感染症検査
定性免疫診断装置



心電図検査
心電計

院長インタビュー

地域のかかりつけ医として

「病気だけでなく、人を診る」医療を

— ご略歴をお伺いします

藤田保健衛生大学（現・藤田医科大学）を卒業後、指導を通じて親交の深かった教授とのご縁でリハビリテーション科に入局しました。リハビリテーション科は、他科と連携しながら全身を診る診療科です。医師としての幅広い知見が得られることに興味を持ち、リハビリテーション科医の道を歩み始めました。

大学病院での勤務後は、医局派遣で国立長寿医療研究センターや長野県飯田市の輝山会記念病院に赴任しました。大きな影響を受けたのは、輝山会記念病院での経験です。飯田市は過疎が進む地域で、医師の数も多くありません。そのため、どの医師も診療科の垣根を越えて地域医療に取り組んでいました。私も内科や外科などに広く携わったのですが、この時の「患者その人を診る」医療こそ、自分がやりたい医療だと確信したのです。上部・下部内視鏡もここで学び、消化器内科医としても研鑽を重ねていきました。

— もともと開業を考えておられたのでしょうか

私の中での医師像というのが、幼少期から身近な存在として病気を治してくれたクリニックの先生だったんですね。ですから医学生の間から、いつかは地域の皆さまに寄り添う「かかりつけ医」として力を尽くしたいと思っていました。身内に医療関係者はいなかったのですが、医師を志した私を家族全員が支えてくれましたし、特に応援してくれた祖父に故郷の小牧市で開業した姿を見せられたことは嬉しかったですね。



開業の際は、訪問診療の経験もあったことから訪問診療クリニックも検討しましたが、同じ敷地内のV・ドラッグさんと協業していて、駐車場も広く、外来環境の方が患者さんに利用してもらいやすいと考えました。

イメージの付きやすい消化器内科を標榜していますが、嚥下の相談などリハビリテーション科の専門性も活かした総合診療を提供しています。



ー 地域におけるクリニックの位置付けや患者層、連携病院についてお伺いします

幅広く診ることを大切にしていますので、できる限りファーストタッチをした上で専門性が必要な場合は適切な科を提案するような医療を心がけています。そのため、当院には本当にさまざまな患者さんがいらっしゃいます。

患者層としては高齢者も多いですが、近くに大企業の工場が複数ありますので、最も多い層は働き世代です。企業健診先にはトラック運送企業が何社かありますので、不規則な生活をされている運転手さんの生活習慣病などにも対応しています。

主な連携医療機関は小牧市民病院となり、次いで近隣地域である春日井市の春日井市民病院、丹羽郡のさくら総合病院への紹介が多くなっています。

ー 大切にされている思いや方針があれば教えてください

患者さんにとって、「かかりつけ医」と言える医師は大抵1人です。何人もいる訳ではありませんから、なるべく当院で完結できるようにしてあげたいと考えています。そのために私自身が成長し続けながら、なるべく多くの患者ニーズに応えられる、幅広い診療を提供できるクリニックを目指しています。CTや内視鏡などの機器を揃えて検査体制を充実させているのも、こうした方針を実現するためです。

院長インタビュー2

ー この地域の医療において、課題に感じていることはありますか

個人的な印象ですが、このエリアは消化器内科が弱いと感じています。

内視鏡検査の予約は非常に多く、特に大腸カメラは半年待ちになっていたため検査数を増やして対応しているのですが、それでも4ヶ月先まで予約が埋まっています。

大腸カメラができるクリニックが少ないことや、当院は鎮静が出来ることもあって、遠方から調べて来る方も多いんですね。現状では検査数を増やすには外来診療の時間を削る必要がありますので、新たにお越しいただく先生に診療をお任せしながら、その時間の検査枠を増やすなどの体制が取れたらと考えています。



ー 求める医師像を教えてください

私は「医は一期一会」だと考え、1回1回の診療が患者さんに信頼してもらえる場になるようにと努めています。ですから、同じ思いで毎回の診療に真摯に向き合い、患者さんとの関係性を積み重ねていってほしいと願っています。

また当院の方針の1つに「病気を診ていくのではなく、人を診る」があります。それは単に病気を診るのではなく、お一人おひとりの気持ちに寄り添いながら最適な治療を一緒に考えていく医療です。例えば、当院に長く通われている高齢患者さんの中には、専門性の高い病院ではなく当院でずっと診てほしいという方もいらっしゃいます。丁寧な説明を尽くした上で、「それでも当院が良い」という希望があれば、その思いを尊重しながら最適な医療の提供に尽くしています。こうしたクリニックの方針を理解し、スタッフ全員が同じ方向を向いて医療に取り組む姿勢が大切です。そのためにも、お互いを尊重しながら協調性を持って取り組める方を歓迎しています。

ー 院長先生の他には、どのような先生がいらっしゃいますか

土曜日には隔週交代で感染症内科の先生と泌尿器科の先生が来られています。お二人とも大変謙虚で優しい先生ですのでファンも多く、患者さんの裾野を広げてくれています。私は今30代後半なのですが、30代前半と年齢的にも近いのでコミュニケーションも取りやすいですね。

ー 今後の運営方針やビジョンについてお伺いします

2025年3月には事務長が着任し、バックヤードの備品管理や人材マネジメントなどを任せる予定です。健診の受診も増えているため、よりスムーズに受けられるようなシステム導入も進めたいですね。

将来的な分院展開も検討しています。近隣の場合はCTや内視鏡などの共同利用が可能ですし、遠方の場合も当院の運営ノウハウを活かした展開を進めていけると考えています。

一 働く上での貴院のPRポイントは何でしょうか

先に申し上げた、充実した検査体制は当院の強みです。

CTやエコー、内視鏡を揃えて、さらにレントゲンにはAI読影補助、大腸カメラにもAI診断補助機能が付いています。CTも遠隔読影で大変信頼している放射線科専門医の先生に診断してもらっています。

病院と同様に当日に検査結果を出すこともできますし、CTを撮るのにわざわざ紹介状を書く手間もありませんから、クリニック勤務が初めての先生にとっても病院の外来診療から移行してもらいやすい形です。患者さんにとっても、一度の来院で済む検査体制はストレスがありませんし、最先端の医療技術を取り入れていることは診断への安心感につながっています。

一 最後に先生方へのメッセージをお願いします

1日に約100名が来院される中で、特に予約外や新患の方の待ち時間が長くなっており、診療体制の強化が急務となっています。

お互いの専門科が異なれば診断に関する相談もできますし、さらに通いやすく信頼できるクリニックとして成長していくことができます。共にこの地域のかかりつけ医として、お力を発揮していただけることを期待しています。



院長 波多野 和樹

略歴

藤田保健衛生大学医学部卒業（現：藤田医科大学）
藤田保健衛生大学病院研修医（現：藤田医科大学）
藤田保健衛生大学リハビリテーション医学Ⅰ講座入局
（現：藤田医科大学）
藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院
（現：藤田医科大学ばんたね病院）
藤田保健衛生大学病院（現：藤田医科大学）
国立長寿医療研究センター
輝山会記念病院

愛知県小牧市について

名古屋から電車で40分。自然豊かで住み良い街

愛知県の北西部に位置している小牧市は、人口およそ15万人のコンパクトな街です。

自然豊かで落ち着いた街の雰囲気ですが、交通の便はよく、小牧市内には路線バスやコミュニティバスが運行しており、車を所有していない場合でも市内の主要スポットへ快適に移動できます。

名古屋駅・栄駅までは電車で40分前後。高速バスも運行されているため、都心部へのアクセスもスムーズです。東名・名神高速道路や中央自動車道のインターチェンジや名古屋空港が近いので、県外へのお出かけや出張にも便利です。



子育て世代に人気の住みやすい街

小牧市は市をあげて子育て支援に力を入れており、現在保育料無償化の対象となっている3歳児～5歳児だけでなく、令和5年度からは0歳児～2歳児までの保育料も無償化になっており、園児すべての保育料無償化は、愛知県内で初めての取り組みです。

他にも給食費無償化（第二子以降条件あり）や医療費無償化（中学生まで）など子育て世帯のための支援が手厚いです。お出かけスポットは多く、子どもたちがのびのびと遊べる施設が多い点もポイントとなっているようです。



小牧市の青空と小牧山城

1年を通してお祭りやイベントが多く楽しめる街

小牧市は、1年を通して春は「小牧山さくらまつり」冬は「小牧駅周辺イルミネーション」など、さまざまなイベントに力を入れていれています。福厳寺の秋葉大祭の火渡り神事、小牧市総合公園のバラ・アジサイまつりなども有名です。

伝統を感じる祭りから市民一丸となって手作りしていく地元のお祭り、歴史ある奇祭など・・・小牧市ではイベントや行事に飽くことなくプライベートな時間も充実しそうです。



小牧山さくらまつり



小牧平成夏祭り



小牧駅周辺イルミネーション



田県神社「豊年祭」



小牧神明社の秋葉祭



バラあじさいまつり



法人概要

施設概要



名 称 : はたのクリニック
住 所 : 〒485-0826 愛知県小牧市東田中字北反田2011
開 院 : 2022年4月6日
院 長 : 波多野 和樹
診 療 科 目 : 内科、消化器内科 内視鏡内科、小児科、泌尿器科、感染症内科
ア ク セ ス : 名鉄小牧線「小牧原駅」からタクシー 6分程度
施 設 H P : www.hatano-cl.net
カ ル テ : 電子カルテ

【診療実績】

- ・ 1日平均来院患者数 100名
- ・ 新規患者比率 20%

【検査・治療機器】

- ・ CT（放射線科医による遠隔読影あり）
- ・ エコー
- ・ 上部内視鏡
- ・ 下部内視鏡
- ・ 胸部X線（AIによる画像診断補助あり）

【職員数】

- ・ 医師
常勤 1名 院長・消化器内科 30代後半
非常勤 2名 感染症内科 30代前半
泌尿器科 30代前半
- ・ 看護師 常勤 4名
- ・ 検査技師 1名
- ・ 事務 5名







はたのクリニック
HATANO CLINIC

Rakusai RPO担当者
前田 啓(マエダ ケイ)
TEL : 080-3204-9046
E-mail : rpo@mstage-corp.jp